



健やか豆知識

第18回

Q. 子どもが頭をぶつけたとき、病院を受診したほうがよいのは?

- I 一瞬顔色が悪くなる
- II すぐに泣かなかった
- III 何回も吐く



タカちゃん

高田製薬は、患者さんや医療関係者の声に耳を傾け、医療ニーズに合った医薬品の開発と情報提供で、健康な社会づくりに貢献します。

— 人びとの健康を願って —  
高田製薬株式会社

日頃から、ヘルメットや安全ベルトを正しく使い、頭部外傷から子どもを守ろう!

乳幼児は頭が相対的に大きく、重心が身体の上方にあるので転びやすく、転んでも手で身体を支えられずに頭をぶつけがちです。実際、乳幼児の事故の中でも突出して転落事故(階段、ベビーカー、自転車のチャイルドシートから落ちる)が多く発生しています。

子どもが頭をぶつけたときは、まず子どもの様子をしっかり観察してください。話しかけても反応がない、うとうと眠ってしまう、何回も吐く、顔色が悪い状態が続いている場合には病院を受診してください。けいれんを起こしたなど症状に応じて、救急車を呼んでいただいてもまったく構いません。一方、1回吐いただけで、その後はケロツとして遊んでいる、ぶつけたときや吐いたときに一瞬顔色が悪くても、その後いつもの顔色に戻れば、しばらく様子を見ていてもよいでしょう。この「様子を見る時間」は、「6時間」が一つの目安とされています。

しかし、頭をぶつくと脳への影響がないか心配になるものです。不安であれば、一度は病院を受診し、次に同じことが起きたときには、どのように対応すればよいかを医師に相談して学んでほしいと思います。

乳幼児の転倒や転落による重大事故は、対策で防ぐことができます。たとえば子どもを自転車に乗せるときは、必ずヘルメットを着用させる、抱っこひもやベビーカーでは必ず安全ベルトをする、家の階段にはガードを付けるなど、事故防止のための道具を正確に使い、子どもを頭部外傷から守りましょう。

\*東京消防庁平成30年「救急搬送データからみる日常生活事故の実態」より

監修 萩原 佑亮 東京都立小児総合医療センター 救命救急科

さらに詳しい情報は ホームページで!

< 正解 III 何回も吐く >

クイズの解説

話しかけても反応がない、うとうと眠ってしまう、何回も吐く、顔色が悪い状態が続いている場合には、病院を受診してください。

転んで硬いものに頭をぶつけた、高いところ(身長2倍)から頭から落ちたなど、子どもが頭をぶつけた時、一般的には数時間のうちに症状が出てきます。頭をぶつけたことにびっくりして、すぐに泣かないこともあります。その後、泣き出したり、駆け寄りきたりと、子どもらしい反応があれば、しばらく様子を見ていてもよいでしょう。6時間を超えて何もなければリスクは下がります(※)。様子を見る上で一番大切なのは、子どもの見た目の状態です。頭をぶつけた直後に話しかけても反応がない、うとうと寝てしまう(傾眠)、何回も吐く、顔色が悪い状態が続いている場合には病院を受診し、けいれんを起こしたなど症状によっては、救急車を呼んでください。

※高齢者は、数か月遅れて症状が出てくる場合があります。

頭をぶつくとたんこぶができることがあります。5cmを超えるような大きなたんこぶや側頭部のたんこぶは、注意が必要です。おでこや後頭部は、比較的骨も厚くできていますが、側頭部は骨が薄いので、硬いところにぶつくと頭蓋骨が骨折している場合があります。ぶつけた頭の位置もしっかりと確認しましょう。たんこぶは冷やしてもいいのですが、子どもが嫌がる場合は無理に冷やす必要はありません。時間の経過とともに吸収されて小さくなります。

東京消防庁の調査によれば、乳幼児の頭部外傷の事故で多いのは転落事故です。右表のとおり、ベッド、階段、自転車の補助イス等からの転落が事故の原因となっています。重大事故にならないように、階段にはベビーガードを、家具にはコーナーガードを、自転車に乗せる場合はヘルメットを着用させる、ベビーカーや抱っこひもを使う場合は必ず安全ベルトをするなど、日頃からの環境整備(対策)が重要です。

< 転落事故の原因上位5つ >

東京消防庁平成30年

年齢	順位	1位	2位	3位	4位	5位
0歳		ベッド	人(抱っこ等)	ソファ	階段	ベビーカー
		135人	67人	57人	45人	42人
1歳		階段	椅子	ベッド	ソファ	自転車の補助イス
		148人	95人	54人	43人	33人
2歳		階段	自転車の補助イス	椅子	人(抱っこ等)	ベッド
		126人	86人	72人	31人	27人
3~5歳		階段	自転車の補助イス	椅子	ソファ	滑り台
		125人	85人	75人	53人	53人